

# コロナ禍における看護師の ワーク・ライフ・バランスの実態

山口大学研究プロジェクト「コロナの時間学」学長・理事への成果報告会

医学部保健学科 生田 奈美可

【目的】 山口県のコロナ禍における看護師のWLBの実態を明らかにした。

【方法】 山口県内の200床以上の総合病院に勤務をしている看護師スタッフ710名を対象に、2021年1～3月、無記名自記式質問紙調査を実施した。調査項目は、基本属性（性別、年齢、看護師経験年数、配偶者の有無、子供の有無、同居家族の有無、介護を必要とする同居者の有無、身体的健康度、精神的健康度、ソーシャルサポートの有無、キャリア形成志向）と看護師のWLB（川村ら、2016）であった。本尺度は上司の管理行動、仕事の裁量、キャリア能力開発、経営体制、仕事と生活の満足度の5因子、24項目で構成されている。5下位因子別に自由記載を得た。分析は項目毎に記述統計を算出し、要因別にWLBと各下位因子の平均の差を検定した。自由記載は質的に分析した。山口大学大学院医学系研究科保健学専攻医学系研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果】 710部配布、636部を有効回答とした（有効回答率89.6%）。女性573人（90.1%）、男性63人（9.9%）、20代261人（41.0%）、30代186人（29.2%）、40代106人（16.7%）、50代以上83（13.1%）、看護師経験年数は、3年以下139人（21.9%）、4～10年239人（37.6%）、11年以上258人（40.6%）であった。約4割が有配偶者で子供有、約6割は同居家族を有していた。9割以上が介護を有する同居者がいなかった。身体的健康度、精神的健康度の平均得点は、 $2.79 \pm 0.60$ 点、 $2.70 \pm 0.64$ 点で、25.0%がソーシャルサポートを有し、23.2%がキャリア形成志向を有していた。性別では、男性は女性に比べ、下位因子2【仕事の裁量】について有意に高く、配偶者の有無では、配偶者無が有りに比べ、下位因子1【上司の管理行動】について有意に高く、子供の有無では、子供無が有りに比べ、下位因子1【上司の管理行動】について有意に高く、同居家族の有無では、同居家族無が有りに比べ、下位因子1【上司の管理行動】、下位因子3【キャリア能力開発】について有意に高かった。身体的健康度、精神的健康度では、良い群が、よくない群に比べて、すべての下位因子及びWLB全体について有意に高かった。20代は他すべての年代と比較し、すべての下位因子及びWLBについて有意に高かった。3年以下は他すべての年代と比較し、すべての下位因子及びWLBについて有意に高く、4～10年以下は11年以上と比較し、下位因子2、下位因子5について優位に高かった。

【考察】 コロナ禍における看護職のWLBの整備においては、上司の管理行動の重要であるとともに、中堅看護師以上の看護職への一層の支援の必要性、及び管理方法として、個人の背景、状況にあった支援方法の確立が急務であることが示唆された。

山口大学研究プロジェクト  
コロナの時間学 ～新型コロナウイルスが人間と社会に対して与える時間的影響～

研究成果報告書

主研究者	生田 奈美可	所属	医学部・保健学科
共同研究者			
研究課題名			
コロナ禍における看護師のワーク・ライフ・バランスの実態			
研究内容と成果の概要			
<p>【目的】 山口県のコロナ禍における看護師の WLB の実態を明らかにした。</p> <p>【方法】</p> <p>調査方法と対象者：山口県内の 200 床以上の総合病院に勤務をしている看護師スタッフ 710 名を対象に、2021 年 1～3 月、無記名自記式質問紙調査を実施した。</p> <p>調査項目</p> <p>1) 基本属性：性別、年齢、経験年数、配偶者の有無、子供の有無、同居家族の有無、介護を必要とする同居者の有無、身体的健康度、精神的健康度、ソーシャルサポートの有無、キャリア形成志向</p> <p>2) 看護師の WLB</p> <p>看護師の WLB 尺度 24 項目。5 下位因子（上司の管理行動、仕事の裁量、キャリア能力開発、経営体制、仕事と生活の満足度） 5 因子別自由記載</p> <p>分析：項目毎に記述統計、基本属性と看護師の WLB と下位概念との関連を t 検定で分析</p> <p>【倫理的配慮】 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻医学系研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（管理番号 649）。</p> <p>【結果】 710 部配布、651 部回収し、636 部を有効回答とした（有効回答率 89.6%）。</p> <p>1. 対象者の概要</p> <p>性別：女性 573 人（90.1%）、男性 63 人（9.9%）</p> <p>年代：20 代 261 人（41.0%）、30 代 186 人（29.2%）、40 代 106 人（16.7%）、50 代以上 83 人</p> <p>看護師経験年数：3 年以下 139 人（21.9%）、4～10 年 239 人（37.6%）、11 年以上 258 人（40.6%）</p> <p>248 人（39.0%）が有配偶者、250 人（39.3%）は子供有、375 人（59.1%）は同居家族を有していた。</p> <p>身体的健康度、精神的健康度の平均得点は、<math>2.79 \pm 0.60</math> 点、<math>2.70 \pm 0.64</math> 点であった。25%がソーシャルサポートを、23.2%がキャリア形成志向を有していた。</p> <p>2. 看護師の WLB に関する質問群の回答分布：下位因子別に割合の多かった、少なかった項目を提示した。</p>			

### 3. 基本属性と看護師の WLB と下位概念との関連

性別では、下位概念 2【仕事の裁量】について、男性の方が有意に高かった。配偶者の有無では、下位概念 1【上司の管理行動】について、配偶者無の方が有意に高かった。子供の有無では、下位概念 1【上司の管理行動】について、子供無の方が有意に高かった。同居家族の有無では、下位概念 1【上司の管理行動】下位概念 3【キャリア能力開発】について、同居家族無の方が有意に高かった。身体的健康度、精神的健康度では、WLB 全体及び全ての下位概念について、良い群の方が有意に高かった。年代では、WLB 全体及び全ての下位概念について、20 代は他すべての年代と比較し有意に高かった。経験年数では、WLB 全体及び下位概念 1【上司の管理行動】下位概念 3【キャリア能力開発】下位概念 4【経営姿勢】について、3 年以下は他すべての年代と比較し有意に高かった。同じく経験年数では、下位概念 2【仕事の裁量】下位概念 5【仕事と生活の満足度】について、3 年以下は他すべての年代と比較し有意に高く、4 年～10 年は 11 年以上と比較し優位に高かった。

4. 自由記載の内容を各下位因子別にカテゴリ化した。

【考察】コロナ禍において、中堅看護師への WLB 支援の必要性、家族をもつ既婚看護師へのキャリア能力開発支援への課題と生活背景を踏まえた上司の管理行動への課題が示唆された。

#### 研究進捗状況・研究成果の公表状況等

論文、学会等発表、実データの利用状況、研究の有用性を広めるための活動など

#### 【学会発表】

生田奈美可：山口県のコロナ禍における看護師のワーク・ライフ・バランスの実態、第 127 回山口大学医学会学術講演会、山口医学第 70 巻第 3 号、140、2021